丁愛亭私氏　ゆく年くる年　［第一部］

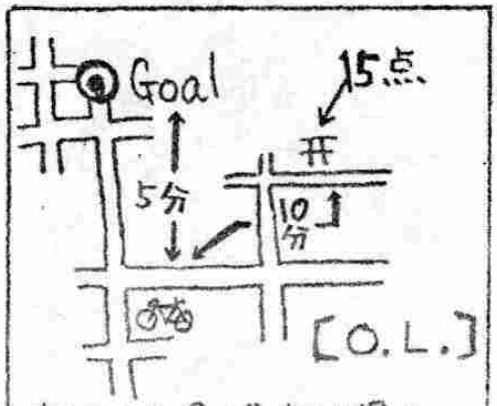
TITCC　　天下　平作

大晦日の夜に雨が降るのは何年ぶりであろうか。ひとりで部屋に籠っていると，いつもの雨降りの日と同じ、あの規則的な雨だれの音が聞こえてくる。階下ではみんなで紅白でも見ているのだろうが、その喧噪はこの部屋までは伝わってこない。大晦日というよりも、ある冬の雨の夜といった感じである。ここ2～3日、あまりにうるさく「この一年」などという言葉を耳にしているので、いまさらこの一年を振り返ろうという気にもなれなかったが，こうして，ひとり部屋に閉じこもって、もう数時間したら聞こえてくるであろう横浜港の船の汽笛を待っていると、せめてサイクリング部のこの一年間ぐらいは振り返ってみようかという気になった。ここに本年の活動報告を兼ねて，サイクリング部の1977年を振り返ってみようと思う。

- 1月9日：今年も例年通り、麻雀大会で始まる。この賞品が仲々よく，ディレイラー，インフレーター，チェーン等をもらう者も居た。当時部長の冨田氏の御好意で，参加者全員に賞がでたと記憶している。しかし、最終半荘で下位リーグにかなりのウマがつき，第三部リーグの西尾氏がオーラスでタテ清一面口をツモって優勝したの

には、上位リーグから不満がでたのも当然であろう。

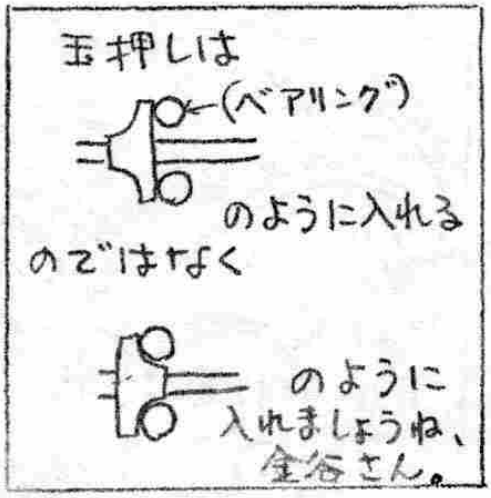
・1月16日：これまた恒例行事となったオリエンテーリング。本年は小田急沿線の厚木 → 鶴巻 周辺で、3時間にわたる熾烈な戦いが繰広げられた。参加は十余名でちょっと少なかった。当日カゼでお休みの大塚氏、歯痛でオッコチの西尾氏など、不参加者が多数いる中、学生服とレインコートで参加の鈴木道夫氏、自宅（東久留米）から走って参加の三浦氏など、クソ寒い中をリキんで参加した人エライ！優勝は2年の鈴木俊明氏。と思われたが実は点数の集計の時の計算間違いで真の優勝者は1年の曽我部氏であった。鈴木氏又カ喜び。三日天下。ごくろうしゃんの言葉を捧げます。



あと10分！どっちが得かよーく考えてみよう。

・1月29日：追コン：追コンの日まで、あんなに4年生の人がいると思わなかったのは 私一人ではないと思う。

・2月27・28日：整備合宿：自転車整備のため、部室周辺に集まって、工具の正しい使い方、自転車の正しいコワシ方、人の部品の正しい盗み方などを教わるありがた～い日です。麻雀大会やオリエンテーリングで新しい部品をもらった人は、みせびらかしながら取りつけます。



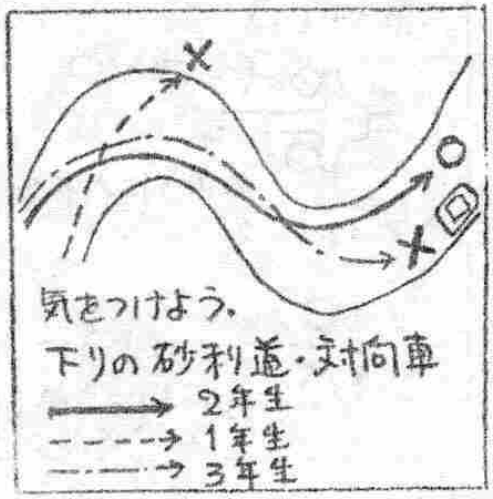
・3月：いよいよ春合宿，今日は南紀。行先については，毎年のようにモメるのだが，ローテーション説に従って結局南紀に決まる。例のように4班に分けて，キャンピング装備で民宿に泊った。川の水につかって平気な顔をする人もいれば，川の水を飲んで下痢マンになってオッコチする人，そうかと思えば同じ水を飲んだのに，同時にビールを飲んでいたので何ともなかった人など，多種多様の春合宿。春合宿は3月27日から4月7日まで。集合地は五条であった。

・4月はとんで5月7日：新歓ラン・今年は13人位一年生が入り，繁昌々々と思いきや，前代未聞！自転車に乗れない（と思われる）人が登場，一同，唖然。何かにつけて，個性あふれすぎる一年生である。最近は，部室のギター片手に，歌など歌っている。一体サイクリング部を何だと思っとんじゃ。でもまあいいや，おもしろいから，ユルス。（と言ってしまうところが弱いのよね）

・5月22日，29日　サイクルサッカー春季リーグ，（・・・・・・・・・・・・）!?

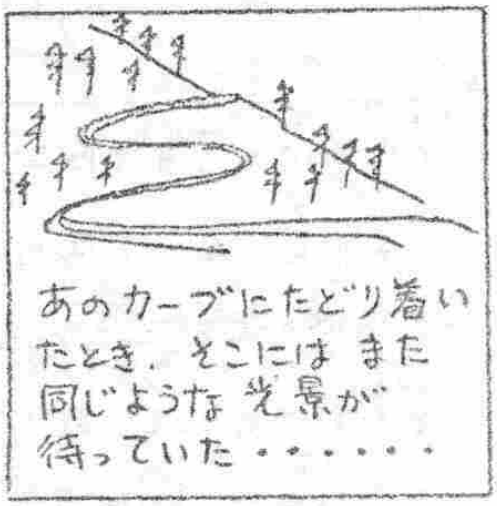
5月26日，新歓ラン：狭山湖マデ

しかし本当によく転ぶ人が居た。（誰も永見君のこと言ってるんじゃないですよ，ホント。）



・6月16日：クラブ創立記念日

・6月18日：OB会創立．第一回総会：今年はクラブ創立10周年にあたる。それで現3年生の諸兄が中心になってOB会を創立し，機関紙第1号を発行した。以後，年内に1回，幹事会が開かれ，OBラリーを行なうなど，活動を開始した。さすがOBだけあって，総会やラリーの時の金まわりのいいこと！（---と オダテちゃったりなんかして。僕等がOBになる時のことを考えると --- 恐怖!!）

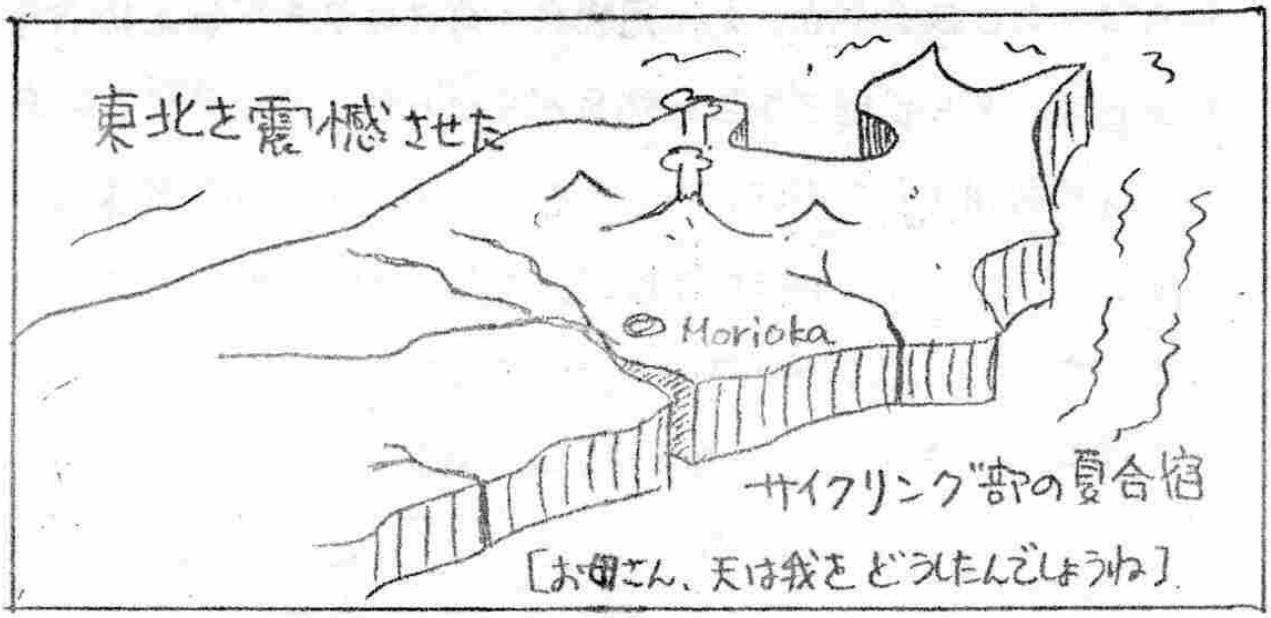


・7月3日，10日 予備予備ラン：今年は自転車に乗れなかったりする人がいるといけないというので，予備合宿の前に，予備予備ランというのを新設，道志渓谷へチョロッといってきた。これで乗れるようになりましたよね。

・7月13日～16日予備合宿：中津川林道→三国峠→茂草峠→茅野キャンピング装備にしてはちょいとシビアだったかな。首謀者の私としても面目丸つぶれ。予備合宿は年々シビアになるという定説に従い，来年はどこにしようかなー と地図を見たりして。

・7月27日ごろ～8月11日，夏合宿：今年ほど問題の多かった夏合宿はない。あとで合宿については述べたいと思うけれども，東工大サイクリング部の大行事である夏合宿が，いろいろと問題になるとは，今年のサイクリング部を象徴しているようで，どうもね。

夏合宿は東北。集合地は盛岡であった。



・8月30日～9月1日 エスカラリー：ひとくちで言って、おかしかった。 OO大学の騒ぎ方は、東工大サイクリング部に多大なる影響を与えた。以後、OBラリー、工大祭に、その流れは脈々と受けつがれている。要するにバカ騒ぎなのかなんかなん？

・9月はなくて10月9日 OBラリー：山中湖を一周する前の日に、お酒をのんで深夜まで騒いでいました。一周したあとも、飲んでた人もいました。でも、みんな久しぶりに走って、しんどいような、楽しいような、なつかしいような、複雑な顔をしてらっしゃいました。

・10月16日、23日：サイクルサッカー秋期リーグ：実際、サイクルサッカーに関しては、私はあまり顔を出してないし、秋期リーグの成績も知らない。これは反省すべきことで、サイクリング部としてサイクルサッカーをやっている以上、もっと部員（私も含めて）が関心をもち、選手として参加できないまでも積極的に支援すべきであろう。

・10月22日，23日：富士スバルラインオープンタイムトライアル

今年は3年生の懸案のオープン行事，オープンタイムトライアルが行なわれ，にぎにぎしく外部の方々の参加（学生だけでなく社会人の方々も）が得られ，小規模ながら盛大にとりおこなわれた。この時の出場者からクラブ宛に手紙がとどいているので2～3紹介しよう。（応募総数3通）

▶（前略）30秒毎にスタートしたことは交通の便を考えれば正解だったと思います。また，参加者全員の力を知らなかったということも後から考えればレースを楽しくしたことかもしれません。レースにおいては4合目の手前とゴール手前、この2つには参りました。結局インナーは使わずに走りましたけれども，この2ヶ所にはインナーに入れるのも忘れたほどでした（後略）

〔深田 宙司さん〕

▶（前略）HILL CLIMBのT.T.は登りばかりの単調なコースではありますが，自分の登坂力の基準となるべきものなので，これを知っておくことは我々サイクリストにとって大変有意義であると思われます。当日は天気が良かったので景色がきれいな上暖かく，申し分ないコンディションでした。（中略）しかしながらランドナーで舗装路を走るのは何かもったいない気がするので，今度は軽量化したロードレーサーで記録に挑戦したいと思います。舗装路のみのサイクリングはロードレーサーで、未舗装又は山道を含むときはランドナーで、というふう

に考えているので・・・・・　（後略）

〔馬替　一郎さん　＝　優勝〕

▶（前略）私の場合、サイクリングを始めてから約一年半、私は、ただ山の中を走るのが好きで、タイムトライアルなどというものは一度も出場したことがないので、完走さえできないと思っていたが、なんとか2時間12分2秒という時間で完走できた。目標が2時間半だっただけにうれしい。登っている時はただひたすらペダルを踏んでいただけで、いつ一合目を過ぎたのかわからない。一言で言えば「かなりきつかった」
登っている途中、ヒザが痛みだし、もう押しの一手しかないのかな？と思ったが、そこをがまんの子であったのでノンストップで登れたが、いまだ、ヒザが治らない。クセになったようだ（？）ゴール前なんか、もがいたつもりだが、全々ゴールが近づかない。やっとの思いでゴール！ゴールしても、実感はわいてこなかった。実際、「もう着いたのか」と思ったくらいだ。
（後略）　〔戸塚　英明さん〕

今回のスバルラインタイムトライアルは初めてのオープン行事、仲々好評で、特に、五合目でたべたおしるこがうまかったという声が多く聞かれました。

・10月29日，30日：工大祭参加：例年通り店を開き、又、今年はT.T.の8ミリを上映しました。収益は例年通り2万円弱。いかに良心的に商売しているかがわかる！

・11月は結局何もせず金もなく12月17日CM会議も金もなくCM会議の忘年会にも出なかったので特記すべきことなし。

・12月18日：サイクルサッカー新人戦：Best 8まで勝ち残ったのは浦島・安井選手．万才々々（マンザイではないヨ）
しかし コーチの話では Best 4までは行く予定だったとのこと。

・12月24日：忘年会：大御所＝堀先輩を招いて，♪朝まで～ふざけよう～ワンマンショーで～ あ～あ～あ～あ～ ---- てなことをやりました。¥3,000-
サイクルサッカーをやってる人々が来なかったのが悔やまれます。

以上で本年のTITCCの公式行事は終りました。この他に，個人でフリーラン（プライベートランと言うのがエスカでは大勢である）に行きたい人は行っていることは言うまでもありません。5月の連休や夏の合宿前中後，試験休み，工大祭明け等，好き者はよく金が続くもので，もっと好きな人は金もないのに行ったりして，サツマのカミをやって --- なーんちゃって．でも今年は金がかかったなー。

CHERUBIM
ロードレーサー，輪行車，キャンピング車
サイクルサッカー車
03-421-4374
月曜定休
サイクルセンター エノモト

丁愛亭私氏 ゆく年くる年 〔第二部〕

1978への展望

天下 平作の古木登

三が日に雪が降るのは何年ぶりであろうか。夜半からの雪がこんなに積もってしまうとは。雪は一時的にではあるが 地上の醜いものを覆い隠してしまう。この雪がとけてしまう前に，仕事を終えたいと思う。

①合宿について，

わがクラブの一番の行事は春・夏の合宿である。合宿には部員全員が参加するのが建前である。一年生はクラブの合宿を習得するため，二年生以上は後輩にクラブのやり方を伝えるために，参加する必要がある。それは，クラブの存在を維持するための目的である。もちろん，合宿は，サイクリングを楽しむためのものであることに変りはない。だが，数名の人間が長期間一緒に過ごす時，そこに何らかの秩序があって当然である。その秩序となるものが，サイクリング部としての「やり方」である。サイクリングの合宿では，予備合宿を除けば，一班の人数はせいぜい4～8人程度で，それほど厳格な秩序を必要としない。各班の構成員の個性によって，班の雰囲気ができあがる。それが その班の「やり方」であり，秩序である。 誰がリーダーシップをとり，誰がその班に参加しているかで，班の「やり方」が決まる。だから班の「やり方」は合宿1回毎に全て異なったものになる。それがサイクリング部

の「やり方」である。したがって合宿を続けていくためには、より多くの個性を必要とする。部員が何回も合宿を経るにつれ，どんな合宿が自分は一番良かったか、楽しかったかを考え，次の合宿はこんな風にしよう等と決めて，上級生になるに従って下のみんなに楽しませてやろうと考えるのが妥当である。

しかし現実には、合宿に参加しない部員も少なくない。不参加者にはそれなりにちゃんとした理由があり、それは認めざるを得ない。それにも増して，サイクリング部の基本姿勢として，何事も強要しないということがあり，「合宿に行きたくない」というのも認めなければならない。そういったこともあって，合宿に参加する者が年々減っているのは残念なことだ。また，合宿の経験を1回しただけで，こんなものかと思いこんでしまう者がいるのも残念なことだ。

部員が合宿に対しどのような感想をもつかは自由だし，合宿に参加しないというのも認める。ただ、個人として合宿を考えるだけでなく、クラブという見地から合宿を考えてもらいたく，あえて駄文を連ねた次第である。

②予備合宿について.

一年生の為に設けられた予備合宿もクラブ行事として定着した。予備合宿の特徴は I.大人数で II.短期間 III.重装備で IV.変化に富んだコースを走ることにある。特に大人数（12人前後）がキャンプするのは予備合宿の重要な意義である。

③サイクルサッカーについて.

サイクルサッカーはサイクリング部の活動として行なっているが、練習時間の都合や自転車の台数制限等で、多くの部員が参加することはなく、また費用などの点でサイクルサッカーの選手がツーリングに出られないという事態もおこる。だが、これは無理もない事で、サイクルサッカーにおける問題点はむしろ、ツーリング部員の、サッカーに対する無関心である。部員全体が、もっとサッカーを応援するようでありたいものだ。

④平常活動について.

現在行なわれているトレーニングは自由参加である。クラブの方針としての「強要はしない」ことからきている。冬になると参加者は減少し、トレーナーもやりがいがなくて困るだろうが、トレーニングの方法として、もっとサイクリング部らしい事ができないだろうか。サイクリング部の平常活動は大抵、サイクリングとは直接関係ないものとなってしまうが、普段から自転車によく馴染んでいれば もっとサイクリングを楽しめると思うのだが。

平常活動について もうひとつ注意したい事は、麻雀である。部室に雀卓があるのは、部員の親睦のためであって、金を儲ける為のものではない。別に雀卓でなくても、碁でも将棋でもいいのである。それを、麻雀をするだけのために部室に来る部員がいるが、そういう事は外でやってもらいたい。部室はサイクリング部のものである。サイクリングの好きな連中の集う所である。

⑤対外活動について.

本来なら，エスカに積極的に参加し，対外的な行事も数多く行ない，部員が，マンガを読みふけったり麻雀をしたりする暇もない程忙しくなるのが，クラブのまとまりをつける上で，望ましいことである。しかしわがクラブは，それができるほど，積極的な人間が多くはないし，自分のサイクリングを楽しむ域で止まっているので，多くは望めないだろう。だが，他校のサイクリスト，あるいは社会人サイクリストとつきあう事は，決して損にはならないはずである。だから，78年も，オープン行事を行なったり，エスカに積極的に参加しようという方向で活動をしたいものである。また，OB会の方面でも今年はいろいろとお手伝いもして，OB会の充実を願いたいものだし，OB会との親睦も深めたいものだ。

⑥安全対策.

幸い，わが部ではこれまで重大な事故は起っていない。しかし起っていないからこそ，起る確率は高いとも言える。安全対策についてはできるだけ具体的な方法を講じたいと思うが，何といっても個人の早く自覚が大切である。自己過信したばっかりに取り返しのつかぬ事態を招き，仲間にも迷惑をかけるようなことのないようにしたい。

----------以上で'78への展望を終る。部員各位の検討を期待する---- どうやら雪がとけてきたようだ------

[完]